

公民館報

さかえ

第364号

令和7年5月1日発行

■ 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

■ 電話
0269-87-2100

■ 編集
栄村公民館報編集委員会

3月20日

栄村の森
こらっしやい!

3月20日、森宮野原駅を拠点としたイベントが開催されました。このイベントは、森地区の活性化をはかるとともに、森地区の住民や栄村民がこれからの集落や村のビジョンを思い描くきっかけとなることを目的とし、一般社団法人 SATOYAMAそだち（代表・吉田理史さん）がコーディネートとなり、森地区の住民や栄中2年生らを協働実施メンバーとして開催されました。

イベントの名称は、栄中の生徒が命名した「こらっしやい！栄村の森」。森地区内に来訪者が行き交い多様な場を提供しようと、さまざまなコンテンツが用意されま

した。具体的には、森地区内を歩いてめぐる景品つきのスタンプラリー、森宮野原駅での限定ランチや駅の2階を乳幼児向けのあそび場やWiFi利用ができるワークスペース、セルフカフェとして開放するなど、子どもから大人までがホッと楽しいひと時を過ごせるような場が開かれました。

当日は天気にも恵まれ、村内だけでなく、津南町や野沢温泉村など近隣からの来訪者もあり、予想を大きく上回る150名以上の方が来場されました。

今回のイベントに関わった栄中2年生は、「森地区がもっと元氣になっしてほしい、人が集まるような場所になっほしい」という思いで準備に取り組んできたと話し、イベントに関わってみてどうだったか聞いたところ「思っていたよりたくさんの方が来てくれて

嬉しかった」「スタンプラリーの企画をしたが、いろいろな人が参加してくれた、楽しかったよと声をかけてくれたのでよかった」などの感想がありました。今後は、「スタンプラリーの範囲を広げてみたい」「キッチンカーや屋台を呼びたい」「イベントの回数を増やしてもっと広く宣伝したい」と話していました。

また、準備から関わった森地区の住民は、「来てくれた方が楽しそうにしていたのが嬉しかった。今後も大きなイベントでなくても、ふらっと寄って楽しんだりできるものがやれたらいい。」と話していました。

参加した人たちは、森地区内を散策しながらスタンプラリーをしたり、駅の2階で思い思いの時間をゆったり過ごすなど子どもも大人も楽しんでいて、多世代が交流する場面も見られました。



村の玄関口の一つである森地区が活気づいて、栄村全体がもっと元氣になっていくことを期待したいですね。今後の動きに注目です！



第4回栄村の文化と自然報告会

栄村の歴史文化と自然を再発見

〜知れば知るほど栄村はすごい〜

主催…地域史料保全有志の会



心に聞き入っていました。

自然の1題目は5年間続けてきた栄村希少動植物調査の報告でした。「栄村自然環境保護条例」が改正され、マニアによる乱獲が減りギフチョウが増えつつあること。しかし温暖化による自然環境の悪化により今後が心配である。今まで栄村では見ることが無かった外来種が増えてきていることなどが報告されました。

自然の2題目、3題目は2021年から始まった、秋山地区での熊の防除について、昨年までの発表に続く経過報告と、忌避剤以外の方法でも熊を撃退できないかという取り組みの報告でした。秋山の熊はなかなか手ごわい、この熊を撃退できれば全国どこでも通用する。今年も続く人間対熊の知恵比べ、結果はどうなるのか。

民俗は地域おこしインターンの伊藤さんの栄村での聞き書きにつ

いてです。今回は五宝木の福原勇一さん・義隆さん親子からお聞きした五宝木開拓当時の様子を中心に報告されました。厳しい自然の中、自給自足で五宝木を開拓したお話です。勇一さんは今年2月亡くなられました。貴重な体験談だと思います。伊藤さんは今年4月に都内で就職されるようですが、時間を作って引き続き栄村に来てくれるとのこと。来年も楽しみにしています。

歴史は和紙文化についてです。栄村では途絶えてしまった内山和紙について、和紙に関する道具の整理と、紙すきの工程について調査しています。今回は紙すきが行われていた当時の聞き取りが進んだことと、資料の提供がありそれらについての報告でした。また一緒に活動している栄中学校1年生の身近な植物から紙を作る研究も、小学生のときから取り組んでいるもので大変興味深く、素晴らしい内容でした。

最後は白水先生から文献班の活動と、今回の和紙の発表に関連して、文久元年（1861年）に起きた平

滝の和紙がだまし取られた事件について、古文書から読み取れる事件の背景についてのお話でした。盗難事件にあうほど和紙はこの地域にとって重要な産物であったことが分かります。

今回で4回目の報告会になりますが、毎回栄村の文化と自然を再認識することができる楽しい内容が盛りだくさんで、来年はどんなお話が聞けるか楽しみです。



豆腐作り講座 開催!

3月22日(土)に栄村公民館にて、豆腐作り講座を開催しました。

15名の方々にご参加いただき、講師の樋口松子さん（月岡）から、巧みな技術をご指導いただきました。昨年も豆腐作り講座を行いました。今回の講座では初めての参加者が多く、「豆腐作りがシンプルでびっくりした。」「とても楽しかった。」などたくさん喜びの言葉が聞けました。昨年ご参加いただいた方からは、「復習できてよかった。」「もっと公民館講座に参加したい。」と良い感想を頂けました。さて、今年度も皆さんが楽しんで学んでいただける講座を開催したいと思いますので、ぜひご参加ください。



春の栄村!

今年の冬は雪が沢山降りましたが、雪が解けたと同時に春の芽吹きが一気に見られるようになりました。

色鮮やかなお花が咲いてとても綺麗です。

春の写真をご提供いただきありがとうございました。



ふきのとう



雪割草



福寿草

4月5日
(土)

「書けないんじゃない、書かないんだ」 上映会開催しました

この映画は津南町出身の鴨井奨平さんが監督し、津南町を舞台に撮影した作品です。大学時代に芥川賞を受賞した女性が結婚を機に津南町に移住するがスランプで次回作が書けない。さらにそこで同居することとなった自称天才小説家の義姉とのぶつかり合いを描くホームコメディです。当日は栄村と津南町から約70名に会場いただき、上映を楽しみました。上映会后、館長からのインタビュー形式で、映画撮影時のお話や映画に対する思いなどをお聞きしました。また鴨井監督から寄稿いただきましたので紹介します。現在、鴨井監督は本作品の劇場公開を目指して奔走中です。

●監督 鴨井 奨平

上映会にはたくさんの方がご来場くださり、大変ありがとうございました。

津南町上郷出身の私には栄村ともご縁があり、このような場をご用意いただき光栄でした。津南町や栄村のような地域に住む人々は、「映画体験」を得ることが難しい環境にあると思います。私は映画『書けないんじゃない、書かないんだ』を通して、より多くの人に映画に対して興味を抱いてもらったり、その魅力を再認識していただきたいと思いながら本作品を作りました。それによって全国の市町村における文化事業に少しでも貢献したいというのが私の願いです。

栄村での上映会が、村民の皆様にとって「映画体験の場」となることができたら幸いです。



4月20日(日)に有志で集まり

「縄文土器フッキー作り」 をしました

栄村には平滝のひんご遺跡、原向の長瀬新田遺跡、野田沢の十王峰遺跡等の重要な縄文遺跡が存在しますが、それらの遺跡で発掘された土器を参考に「食べられる土器」を作ってみよう！という内容でした。

ココアパウダーとクルミを練り込んだクッキー生地にはティッシュを熱ったものを使ったり、竹串やストローを使って文様をつけたりしました。

このような有志による活動の場としても公民館をどんどん活用してください。



栄村の新・おみやげ

「幸せを呼ぶさかえぼうき」 作り方講習会を開催します！



☆30分～1時間で簡単に作れます！

☆誰でも参加OKです！

☆参加費無料、申込み不要。手ぶらでお越しください！

●日時 5月の水曜日と土曜日の13時～16時
この時間内で自由に出入りOKです

●場所 栄村公民館（こらっせ1階広間）

●問合せ 栄村つぐら振興会企画部・安田
☎070-2231-5174

あーそんなことがあったんか
〜ど先生の栄村昔語り〜 其の六十八

村定について(その五)



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称：ど先生)
イラスト作成：佐藤洋平

春先の大雪から一転、夏日が来る頃合いになりました。皆様お変わりなくお過ごしですか。季節の変化が急になりました。日本は四季の国から三季の国になるなどという評もむべなるかなという気がします。

今回は、旅者に宿を貸したことが不慮の結果を招いた事例を紹介いたします。

事の発端は、以前に紹介した天明六年の事例と同じようなものでした。寛政元年(一七八九)七月、箕作村のA左衛門(事件なので名前伏せします)の件で五人組頭と

組下の者の計七名が村役人に書付を差し出します。そこにはA左衛門が御役所の触出に背き「行衛不知胡乱成ものへ宿を貸しており、いくら申し受けても聞かずに旅者を隠し置くのを止めないので、御定法が立つよう村の三役人衆から相談を頼みたいと書かれていました。しかし、その後も村の者の心配を他所に、A左衛門とほかにもう一人、B作という村人は旅者に宿貸しを続けていましたが、同年九月のある夜、事件が起きます。

九月十九日朝、A左衛門とB作がそれぞれ村役人に証文を差し出しました。二人の証文は、文言に少し違いがありますがほぼ同じ内容です。A左衛門の出した証文は以下のようなものです。

旅者留メ置二付一札之事

この度、組の内泉平の某が昨夕盗難にあい、後を追った。殊に初雪が降ったので跡方も知れ、追い掛けたりとと当村(箕作村)へ逃げ込み、私方も胡乱(怪しい)として私をはじめ残らず家捜し成

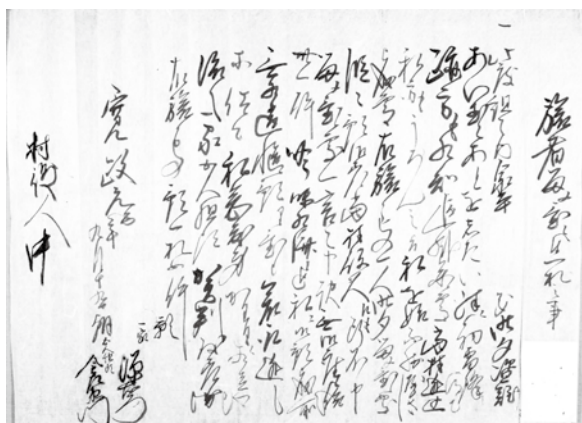
されたところ、旅の者一人を昨夕から留め置いたことで段々と差当(さつとう)、咎めを受けること)に預かり、村役人にも断らず留め置いたことは一言の申し訳もありません。この一件により吟味が済むまで(旅の者は)私にお預けなされました。相違なく慥かに預かり置き、もし取り逃がしなどしたら私がきつと身代わりに立ちます。これにより一家五人組頭が印形を加えて旅の者預かりの一札を差し出します。

B作も、旅人一人を無断で留め置いたとして、ほぼ同じ内容の証文を差し出しています。初雪のことはA左衛門の方にだけ書かれており、寛政元年九月十八日は今の暦で十一月五日に当たります。証文は旅人の預かり人として各通にA左衛門とB作が署名押印し、「一家」として源右衛門、およびそれぞれの五人組頭が署名しています。各通の五人組頭は別名なので、A左衛門とB作はそれぞれ別家であることがわかります。いっぽう源右衛門は別の文書に「大屋」の肩書きで出ており、いわゆる本家筋の人物かと思われます。肩書きの「一家」は「イッケ」などと読まれるでしょう。

泉平での盗難事件と旅者の関係

は不明で、事件の下手人はたまたま箕作村の方に逃げ込んだだけかもしれません。そして不幸な偶然か、箕作村には二人の旅人がおり、彼らに嫌疑がかかります。そして旅者に宿貸しをしたA左衛門とB作は、はからずもこの事件に関わることになってしまいました。彼らは無断で宿貸しをした件で咎められた上、吟味が済むまで旅人の身柄を引き受けるよう命じられました。しかし彼らには、さらに重い咎が待っていました。

続きます。



旅者の身柄を預かった証文



栄村公民館 図書室だより



..... 2025.5

村内移動図書のご利用ありがとうございました

栄村公民館図書室で12月から3月まで村内移動図書を実施しました。今シーズンは初めてご利用していただいた方も多く、のべ150名のご利用がありました。450冊以上の本が貸し出され最後の巡回日は「楽しませてもらった」と嬉しい声をたくさんいただきました。春からはぜひ公民館図書室まで足をお運びください！

こどもの読書週間



子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとる願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）～5月12日に期間を延長しました。開始当時より、図書館・書店・学校を中心に、子どもたちに本を手渡すさまざまな行事が行われてきました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか…。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとって子ども読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。

新着図書の紹介

贖罪（湊かなえ）／目には目を（新川帆立）／藍を継ぐ海（伊与原新）／骨と肉（櫛木理宇）
森と、母と、わたしの一週間（八束澄子）／エレファントヘッド（白井智之）／C線上のアリア（湊かなえ）
私の身体を生きる（西加奈子 他）／或るバイトを募集しています（くるむあくむ）
わたしの知る花（町田そのこ）／ドヴォルザークに染まるころ（町田そのこ）
社会人大学人見知り学部卒業見込（若林正恭）／80歳、不良老人です。（太田和彦）
アルツハイマー病のことがわかる本（新井平伊）／自分サイズのセーターを編む（西村知子）
かぎ針で編む四季の行事あみぐるみ（いちかわみゆき）

だじゃれしよくぶつえん（文・中川ひろたか／絵・高島純）
だじゃれどうぶつえん（文・中川ひろたか／絵・高島純）
ほげちゃん（やぎたみこ）／ハンバーグハンバーグ（武田美穂）
だんごどっこいしょ（作・大川悦生／絵・長谷川知子）
妖怪横丁（広瀬克也）／あかにんじゃ（作・穂村弘／絵・木内達朗）
またまたねえ、どれがいい？（訳・まつかわまゆみ）
わんぱくだんのかくれんぼ（作・ゆきのゆみこ 上野与志／絵・末崎茂樹）



えほん

★栄村図書室開放時間★

平 日 午前8時半～午後5時
土・日 午前9時～正午
※祝日は休館します

★休館日のお知らせ★

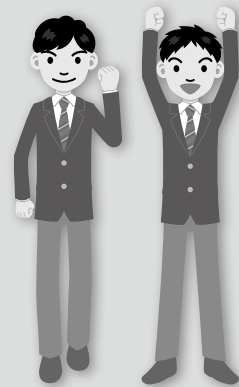
5月3日(土)、4日(日)

★お知らせ★

もし本を破いてしまったら修理せずそのままにし返却時に破損箇所を教えてください。

図書ボランティア 募集中！

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。読書の習慣もできますよ。栄村在住の成人している方ならどなたでもできます。1～2か月に1度の当番です。お問い合わせは栄村教育委員会事務局 ☎87-3118までお願いします。



上倉風咲さん（森）

涼介君と一緒に津南中等教育学校を卒業することができました！

中等に入学してから6年間陸上競技部の活動を頑張ってきました。100mと200mを中心に一生懸命練習をし、100mで10秒台の記録が出たときは非常にうれしかったです。

将来は陸上競技に関わる仕事に就きたいので、大学へ進学して体育学を学んでいきたいと思っています。

桑原涼介さん（北野）

無事！津南中等教育学校を卒業することができました！

在学していたころは、課題の提出やテスト勉強に必死になってやって同級生に負けないぐらいの勢いで頑張ってきました。振り返ると思い出だけでとても楽しかった学校生活でした。これからは大学に進学して、高校時代に政治や経済学に興味をもったので、将来はそういった仕事に就職したいなと思っています。

村民広場

ようこそ！栄村へ！！



伊藤 三晃さん（白鳥）
三貴さん
悠人さん

Q 栄村に移住したきっかけは何ですか？

A もともと長野市に住んでいましたが、山が近くにあって静かなところに住みたくなり、栄村の賃貸物件を探したのがきっかけです。今住んでいるお家は、畑や田んぼがあり自給自足できる環境になっていて毎日の生活がとても楽しいですし、地域の方々も人柄がよくて快適な生活を送れています。

Q 移住して1年ほどたちますが、これから頑張っていきたいことはありますか？

A 昨年以上に畑仕事に力を入れていろいろな野菜を作り、キッチンカーを出してみたいなと思っています。また、栄村をまだ全体的に知り尽くせていないので、家族と一緒に村内巡りをして学んでいきたいなと思っています。

令和6年度の来館者数

延べ1,806名

開館以来の来館者数は
15,493名です。

昨年度も大勢の方にご来館いただくことができました。

今年度も様々な講座や企画を設けていきたいと思っておりますので多くの方にご来館していただきたいと思います。

令和7年度もよろしくお願いします。

●新体制!! 公民館報編集委員会

昨年度末で公民館報編集委員の任期が満了し、新たに館報編集委員として4名を委嘱しました。

公民館報編集委員会は、公民館長と公民館主事を含む8名で活動しています。皆さんの日常の情報や公民館主催の行事など楽しい情報をたくさん載せたいので、取材へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

じやうせ通信

集落支援員のひとこと!



集落支援員の長田
ちなみ（志久見）です。

現在、栄村公民館の集落支援員として、村内の各集落の現状や課題の聞き取りを行っています。

具体的には、集落行事や普請などの実施状況、家屋の状況などを聞き取りしています。

順番に各集落をまわっていく予定で、多くの方からお話を伺えればと思っています。可能な範囲でお話を聞かせていただけると嬉しいです。

どうぞ宜しくお願いします。



今月の一句 ～栄村俳句会～

山桜住めば都よ秋山郷
電柱に雪は重たげ秋山郷

山田 せき

満々と千曲川の流れ花吹雪
ひよどりを枝になかせて花吹雪

関谷 貞子

奥信濃ぶなの芽吹きはほのあかし
春光に翼広げしトンビ二羽

柳 静江

花吹雪見れる幸せ今ここで
くる年も元氣に見たしこの桜

山田 邦江

千曲辺の桜吹雪に時忘れ
太き老樹小枝伸ばして桜咲く

杉浦 恵子

編集後記

一気に春の暖かさを感じる心地よい時期になってきましたね。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

春といえば山菜採り! 4月上旬からたくさんふきのとうが出てきましたし、早速天ぷらにして食べたりしているご家庭もあるのではないのでしょうか。私は、ふきのとうが大好きで、あの独特の苦味は癖になるほどおいしいです。5月6月に入ればコマミとかコシアブラとかいろんな山菜が採れると思うので、この春は山菜料理を楽しもうと思います。

もし皆さんの中で山菜を使ったおすすめの料理がある方はぜひ教えていただけたら嬉しいです!

俳句の会への参加や俳句の投稿募集しています!
ご興味がある方は栄村公民館(☎87-3118)までお電話ください。